

# 総務文教常任委員会資料



## セーフコミュニティ再認証について

政策推進室  
安全安心まちづくり課

## 1. セーフコミュニティ（SC）再認証に係る現地審査について

### 〔1〕趣旨

亀岡市が日本で初めてSCの国際認証を取得してから4年半が経過、SCの継続には、5年毎に審査を受ける必要がある。亀岡市は、9月にWHOSC認証センター（韓国）と協働センター（スウェーデン）へ再認証申請書を提出した。申請書記載内容に基づき、平成24年10月26日（金）及び27日（土）に本審査（現地審査）を受けた。

### 〔2〕審査員

アジア地域セーフコミュニティ認証センター  
チョウ・ジュンピル審査員（韓国）  
パイ・ル審査員（台湾）

### 〔3〕審査内容

各対策委員会からのプレゼンテーションと現地視察

#### ①概要説明（亀岡市SC総括説明）プレゼン

説明者：栗山正隆亀岡市長

#### ②高齢者の安全対策

説明者：対策委員会委員長 宮前町地区社協会長 森 良之 氏

#### ③余暇・スポーツの安全対策

説明者：対策委員会委員長 京都学園大学教授 吉中 康子 氏

#### ④自殺対策

説明者：対策委員会委員  
亀岡地域包括支援センターあゆみセンター長 松本 善則 氏

#### ⑤交通安全対策

説明者：対策委員会委員長  
亀岡地域交通安全活動推進委員協議会長 俣野 幸雄 氏

#### ⑥乳幼児の安全対策

説明者：亀岡市こども福祉課長 小川 泉 氏

#### ⑦現地視察（中部保育所）

## 2. 現地審査の結果について

### 〔1〕概要説明

- ①非常に素晴らしいという印象を持った。
- ②第一号認証として、大変洗練された活動がされている。
- ③データに関して、一般外傷が増えているということであったが、一般外傷の細分化ができれば素晴らしいのではないか。
- ④犯罪件数が半減していることは大変に素晴らしい。どうした活動が効果したのか、逆に教えて欲しい。
- ⑤亀岡市の素晴らしい活動・ノウハウをこれからも広く発信して欲しい。
- ⑥市内に限らず日本国内外へもSCを発信できていることを大変嬉しく感じた。

### 〔2〕高齢者の安全対策

- ①高齢者のプログラムを展開するに当たってのポイントは、受け身の立場ではなく、活動主体者としての視点が必要であると思う。  
⇒亀岡市の取り組みは、それが実践できており素晴らしいと感じた。
- ②取り組みによる変化(効果)の、把握がきちりできている。
- ③モデル地区での活動で良いと思えるものは、全市へ広げるというステップを踏んだ取り組みができている。
- ④命のカプセルの活動についても、配ったら終わりというのではなく、更新はできているかの検証もできている（かめまるマスコットもうまく使って普及がされていることは素晴らしい。）。
- ⑤大学も入って亀岡をフィールドとして、研究がされている。委員会のメンバーに若い研究者が入っていることは素晴らしいことである。
- ⑥取り組みがクリエイティブである。活動の継続の視点が、取り組み発表の中で感じられた。

### 〔3〕余暇・スポーツの安全対策

- ①自転車でクラブ活動に通う子供達にヘルメットを着用させて、スポーツだけでなく交通安全にも取り組んでいることは素晴らしい。
- ②まずデータをみて、課題を見つけて、目標を定めて計画性を持って取り組みができている。
- ③スポーツから食や生活にも気をつけた、人、環境、行動と総合的に捉えたアプローチができている。
- ④捻挫、骨折が多いが、これはウォーミングアップがしっかりできているのかとも考えられるので、準備体操の工夫が必要。
- ⑤スポーツの安全から、食との関係の調査に続けて行くのも良いのではないか。

⑥指導者や保護者に対するアプローチも行なっていることに感心した。

もう少し具体的に聞きたい ⇒ 9月に実施した指導者研修の概要を説明受傷者である子供を中心の安全対策を考えるのが普通であるが、子供を取り巻く広い視点からの啓発対策はモデルとなる活動である。

#### 〔4〕自殺対策

①データをきっちりと示して、どうした対策が必要かについて考えられており、素晴らしい発表であった。

②手段の分析で服薬によるケースが多いという発表があったが、誰か別のものが薬の管理ができるようにならないかを考えてみるのもいい。

③自殺問題は、本人のみの問題ではない 家族や取り巻く人々にも大きく関わる問題であるとの気づきの発言があったが、その通りで、大切な問題提起として考えていただきたい。

④自殺者と自損行為で救急搬送された数を合わせると65人/年間となるし、救急搬送される以外にも自損行為があると判断すると、非常に多い数である 今後の対策として、一番には精神科医での把握ができる方法を考える必要がある。

⑤死因の一番に健康問題が上がっているが、健康の中身がメンタルな部分が原因しているのか、身体の持病の問題なのかの分析ができれば、もっと効果的な対策が講じられると思う。

⑥2009年、2010年と自殺者が増加しているが、2つのプログラムの効果はきっと出てくるはずであるので、継続して活動を続けて欲しい。

#### 〔5〕交通安全対策

①大きな事故が起こったことは大変残念なことであったが、非常に素早い対応がされていることがわかった。

②今回の事故によって、交通安全対策の質の向上が図られたことは、これまでのSCの取り組みが効果として現れであると感じた。子供の頃からの安全教育など今後のさらなる安全対策の向上を期待する。

③悲しみに負けず、素早い対応に感銘した。SCは、パーフェクトではない。活動を継続して行くことで少しでもアクシデントを減らしていこうとする活動である。

④高齢者の事故、自転車の事故が多いという課題を掲げて、対策が講じられているが、高齢者は人であり、自転車はもので視点が異なるために、少しわかりにくいと感じた。対象を人に絞って、もう少し分かりやすくする工夫が欲しい。高齢者のどうした事故が多いのか？自転車事故はどの年代で多いのか？によって、対象をクリアーにすれば分かりやすくなり、対策も考えやすいのではと思う。

#### 〔6〕乳幼児の安全対策

①保育所の就園の年齢範囲は？

⇒家庭での保育に欠ける幼児で0歳から5歳まで、全幼児の約7割が就園している。

②子供と一緒に安全点検をする活動は、大変素晴らしいと感じた。

③三つの視点（保育士、保護者、社会）で対策を考えているとのことであったが、もし子供の視点というのが含まれているのであれば、子供にも責任を持たせるということになり意見を言おうと思っていた。しかし、安全意識付を子供の頃からという意図であったので安心した。

④公立保育園での取り組みであるが、素晴らしい取り組みであるので、今後、私立保育園へも拡大して行って欲しい。

⑤保育士の視点から子供の安全意識が高まったとか、安全確認ができるようになったとか判断しているが、主観的判断であり、保育士間で差もあると思うので、もう少し客観的判断ができるように工夫して欲しい。

#### 【全体講評・全体質疑】

①5年前と比べて著しい進歩を感じた。5月の事前審査と比べても大きな進歩が感じ取れた。

②我々にとっても学びの場になった。再認証審査のポイントは、5年前とどのように変化したかであるが、そのことをきっちりと理解をして対策が講じられている。

③審査を市民公開とし、オープンにして他の自治体にとっても学びの場を与えていることは素晴らしい。

④エビデンスをしっかりとされて、計画・目標を持って取り組みができています。取り組み後の評価もできており、素晴らしい。

⑤分野横断的な取り組みで、体制づくりにも努力をされている。

例) スポーツの安全で、対象を子供だけでなく保護者やコーチへの教育も入れていることや、練習への行き帰りの自転車でヘルメットをかぶらせることなど、他の分野へも連携して対策が考えられている。

⑥どのプログラムについても包括的な取り組みとして短期、中期、長期の目標を定めて活動がされているが、5年後の再々認証には長期目標の成果が示せることを目指して取り組みを継続して欲しい。

⑦保育園での取り組み視察で、環境への取り組みにも配慮がされている。是非、セーフスクールの取り組みについて考えて欲しい。

⑧多側面から積極的に取り組みがされているが、一つ提案がある。

ターゲットを絞り込むことが考えられる。高齢者の安全対策は、交通安全や自殺対策とジョイントできるのでは。若しくは、交通安全対策の中で高齢者や子どもをハイリスク層として捉えてしまうなど。

⑨大変に素晴らしい取り組みであって、再認証に十分に値する。

# SC再認証「条件十分」

亀岡市の  
本審査終わる

亀岡市が再認証を目的。再認証には5年ご  
指す世界保健機関(WHO)の「セーフコミ  
ユニティ(SC)」の 26日は市役所で、自  
本審査が27日までの2 殺や交通安全対策など  
日間、同市で行われた。4テーマの取り組みに  
審査員2人は「再認証 について、市の説明を受  
の条件を十分に満たし けた。27日は乳幼児の  
している」と前向きに評 安全対策を見るため、  
価した。 中部保育所(曾我部町) すかった。5年間の進

国内初の認証を受け ちを使う際に人に向け した。(久保田昌洋)



保育所内の安全対策について職員から  
説明を聞くSC審査員ら

(亀岡市曾我部町・中部保育所)

10月26・27日、再認証のための本視察行われる

# 「セーフコミュニティ」

安全安心を町作りのテーマに掲げる亀岡市が世界保健機関のセーフコミュニティ(SC)の国内初認証を受けて4年が経過。5年ごとの審査を受け、継続を目指している。10月26・27日、WHOの担当者は亀岡を視察、これまで亀岡が取り組んできた活動の成果報告を受け、来年の正式な発

## 「再認証の条件を十分に満たしている」

ことを紹介した。審査員の2人は「当初認証から大きく進歩した」と審判を公開し、市民や他の自治体に学びの場を提供している「さすが、日本1号認証都市」などと絶賛し、最後に「再認証の条件を十分に満たしている。おめでとう」と講評した。

## 科学の不思議に触れる

### 地域ふれあいサイエンスフエスタ

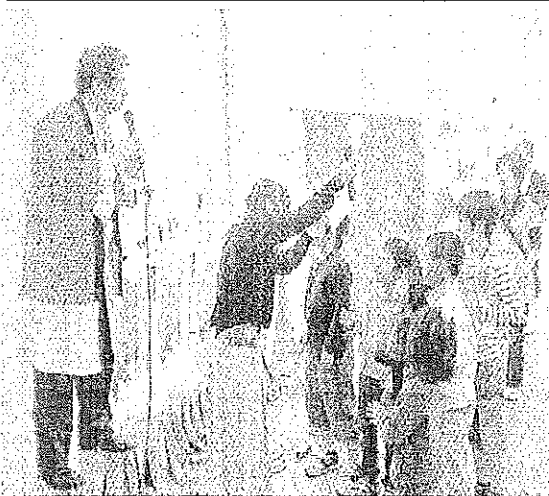
地域ふれあいサイエンスフエスタ2012が10月27日にガレリアかめおかで開かれ、親子らが実験を通して科学の魅力に触れた。理科離れの子どもの減らすため、亀岡市と市教



太鼓の安全対策報告を兼ね、子どもたちが太鼓演奏

表を待たず、「再認証の条件を十分に満たした」と称え、SCの認証は、「事故やけがは偶然の結果ではなく予防できる」との理念で、WHOが推進する取り組み。5月には、セーフコミュニティ認証センターのセンター長チョウ・ジュンピルさん(韓国)が公認コーディネーターのバイルさん(台湾)が亀岡を訪れ、SCのガイドラインにそった活動となっているかを確認し、「80点から90点」と評価した。今回は再認証のための本視察で、5月と同じ2人が訪れ、亀岡市から「高齢者」「余暇・スポーツ」「自殺」など5項目のプレゼン

た。ほかに、4月にあった無免許の少年が小学生の列に突っ込んだ事件を受けて取り組んだ、速度制限の変更、危険箇所の調査、電光掲示板の設置、路面表示などを紹介した。夜、湯の花温泉の「京都・烟河」で歓迎のレセプションを開き、2人をもてなした。



サイエンスショーの実験で興味を示す子どもたち

### 3. 今後のスケジュール、取り組み等について（現地審査の結果を踏まえて）

#### 〔1〕再認証内定通知

現地審査全体講評時に審査員から、「内容は非常に良かった。亀岡市は再認証の条件が十分備わっている。再認証おめでとうございます。」との高い評価とコメントをいただいた。認証に係る内定通知は、早くても年内との連絡を受けていたが、平成24年11月22日（木）付けでSCアジア認証センターから、「再認証内定通知」が届いた。予定より1ヶ月以上早い、異例の内定となった。現行ガイドラインに基づく再認証取得認証基準は、当初〔最初の認証〕時に比べ厳しいものとなっているが、その高いハードルをクリアし、国内初のSC国際認証再認証取得都市となる。

#### 〔2〕SC再認証認証式典

年度内（平成25年2月23日（土）予定）に認証式典を行う。本来、認証取得時には、国際的なカンファレンス（会議）の開催が半義務的なスタイルとなっていたが、市民参加が得にくい環境にあり、市民参加型のイベント形式のフェスティバル開催と、再認証取得式典を併せて開催することとする。

実施にあたっては、「KAMEOKA 安全・安心まちづくりフェスタ2013実行委員会」を設立し、市民や関係者等との協働による幅広い見地から事業展開を図っていくこととする。12月議会において、実行委員会予算案を計上。

#### ※式典のポイント

- ・SCの取り組みをよりわかりやすく市民啓発する
- ・これまでの取り組みと、成果・課題が見えるかたちで市民啓発する
- ・安全安心対策関連企業の参画を得る
- ・関連・関係大学の協力を得て、科学的な取り組みの紹介をする
- ・市民参加体験型のイベントとする
- ・再認証取得を市民みんなで祝う取り組みとする

#### ※予算措置（平成24年度12月補正計上）について

式典については、当初認証時のような世界規模でのカンファレンスから脱却し、市民参加が容易な内容とし、経費の節減を図る。

（2008年当初認証時カンファレンス経費総額 約710万円）

#### ※総合計画～夢ビジョン～における位置づけ

##### 第3章第1節セーフコミュニティ

具体的施策5 セーフコミュニティの普及と啓発  
シンポジウムや国際会議の開催（協働）



### 〔3〕約5年後となる、再々認証の取得を目指す

- ①SC認証取得団体・取り組み団体が増えてきているからこそ、国内第1号の価値は高い。
- ②視察も、有料としているにもかかわらず、現在も多い。これは、国内第1号であるが故。国内では、亀岡市は、セーフコミュニティで有名。他の認証取得団体も、その傾向。再認証を目指さない団体はない。
- ③経費が伴うが、5年毎であり、前述の効果をみても、十分費用をかける価値がある。
- ④審査を受けることで、住民・担当職員・関係者の意識と行動が飛躍的に向上する。地域の活動へも大きな効果を生んでいる。
- ⑤5年毎に取り組みのまとめ・確認・改善等を行う好機会である。認証を目指さないとすると、せつかくの取り組みが後退しかねない。故に国際認証の取得には大きな意義があり価値がある。

### 〔4〕セーフスクール（ISS）の導入

- ①いわゆるセーフコミュニティの学校版である、インターナショナルセーフスクールの認証を新たに目指す。
- ②対象は保育所か小中高校。京都府下では、少年犯罪が全国ワースト上位にあり、亀岡市も例外ではない。比較的若年期から、安全・安心への意識を育んでいくことが重要。事故やけがの予防だけでなく、自転車盗や万引きなどゲートウェイ犯罪の予防としても効果が期待できる。
- ③日本では、大阪教育大付属池田小学校をはじめ、厚木市立清水小学校がセーフスクールの認証を取得しているが、児童の安全・安心に対する意識行動の大きな変化が見られ、取り組んで本当によかったとの報告を受けている。
- ④小学校での取得がいちばん理想である。今後、セーフスクールの認証を一つのツールとして、市内への安全・安心の取り組みを拡充していきたい。

### 〔5〕重点課題に係る取り組みの推進

- ①本市SCの重点課題である、「乳幼児」、「高齢者」、「学校」、「余暇・スポーツ」、「交通安全」、「自殺」、「防犯」の7対策については、現行プログラムをPDCAサイクルにより推進していくとともに、必要に応じ、新規プログラムを導入し、外傷予防・安全向上を引き続き図っていく。
- ②各対策委員会の持続・継続をしっかりとコントロールしていく。認証取得が目標でなく、あらゆる角度から市民の安全・安心を守っていくためのしくみが各対策委員会である。現在までは、市民代表は半ボランティア的に参画いただいていたが、それでは持続可能なしくみとならない。本市、協働のまちづくり指針に基づき、市民委員にもある程度の報酬を確保する。
- ③本市では高齢者が進んでおり、救急搬送においても高齢者の事故やけがによるものが急増してきている。「高齢者の運動介入プログラム」や「なんたん元気づくり体操」など、転倒予防対策を今後更に充実させていくとともに、高齢者の元気づくり、うつ予防、医療費削減にも繋げていきたい。
- ④篠町における交通事故を受け、実現可能な対策を迅速に行ってきた。中長期的改善につき、引き続き関係者間連携のうえ実施していく。

## 〔6〕地域における活動の推進について

- ①重点課題解決に係る予防プログラムを中心に、市内全域におけるSC活動を今後も推進していく。
- ②自治会モデルとしては、基本的に、都市型モデルの「篠町」、農村型モデルの「旭町・馬路町・千歳町・河原林町・保津町」の6地区への支援を今後も引き続き行っていく。
- ③他の地域については、地域の最重点課題をデータから判断し、その解決に向けた取り組みを支援する方法を検討する。
- ④現在、各対策委員会における新規プログラムについて、自治会・地区民生児童委員協議会・地区社協などを一つの単位・地区としてモデル的に実施する方法をとっているが、これも、モデル地区活動の一つとして捉えており、効果的だと判断されたプログラムについて、全市的に施策として導入していく方法により、活動を推進していきたい。

### 〔例〕

- ・高齢者見守りあいあいネットワーク（篠町）→ 全市的取り組みとして導入
- ・高齢者の転倒予防ペンダント → 西つつじヶ丘・篠で導入予定 → 効果が出れば他の地域へ施策として導入していく
- ・府民協働防犯ステーション → 大井町並河が市内初 → 今後、他の町へ拡大

## 〔7〕外傷サーベイランス（外傷状況の収集分析）と効果の測定

- ①現地審査時に助言を受けた救急搬送サーベイランスの方法を、より詳細なものとなるよう、改善する。
- ②公立保育所サーベイランスを、幼稚園・私立保育所においても、可能な範囲で行っていく。
- ③既存データの継続的収集に加え、地域ごと（自治会）の外傷データを収集していくしくみを構築していきたい。
- ④予防プログラムの短期・中期・長期的評価指標に基づく効果の測定を順次行い、わかりやすい方法で示していく。

- 参 考 资 料 -





## Center for Community Safety Promotion



Masataka Kuriyama,  
Mayor of Kameoka City  
Chair, Kameoka Safe Community Steering Committee  
Kyoto Prefecture, Japan

Re: International accreditation of Kameoka for Re-designation as a Safe Community  
Date: November 22<sup>nd</sup>, 2012

Dear Mayor Kuriyama:

I am very pleased to inform you that Kameoka, Kyoto Prefecture, Japan has been fulfilling 7 indicators successfully and sustainably since the first international designation in 2008 as “A Safe Community”, which is coordinated by the World Health Organization Collaborating Center on Community Safety Promotion (WHO CC CSP) in Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden

The accreditation will be kept effective after signing on the “Agreement of Safe Community” for Re-designation between the Mayor of Kameoka City and the Chair of the Certifying Center for Safe Community, Suwon, Korea, on behalf of the WHO CC CSP.

I would like to congratulate all the citizens of Kameoka City on the successful achievements of Safe Community programs. I am very looking forward to Kameoka City's continuous contribution to global movement of Safe Community by sharing their experience with other communities, nationally and internationally.

All the best of Kameoka Safe Community!

CHO Joonpil  
Chair  
Certifying Center for Safe Community  
Ajou University School of Medicine  
Suwon, Korea

## Center for Community Safety Promotion

Postal address

Ajou University School of Medicine, Suwon

Contact information

Tel) +82-31-219-5286

Fax) +82-31-219-4568

## 亀岡市セーフコミュニティ再認証内定通知文 要約

京都府亀岡市セーフコミュニティ(SC)代表  
亀岡市長 栗山正隆 様

2012年11月22日

### 亀岡市SC再認証内定通知

栗山市長 様

亀岡市は、2008年に初めてSC認証を受けて以来、継続的にSC活動に取り組んでこられました。その活動内容は、スウェーデン、ストックホルムのカロリンスカにあるWHOCCCSP〔WHO地域安全向上協働センター〕が定めるセーフコミュニティ認証のための7指標の条件を十分満たしていることをお知らせできますことを非常にうれしく思います。

WHOCCCSPに代わって、アジア地域SC認証センター代表のチョウ・ジュンピル(趙 竣秘)審査員が亀岡市長に直接会い、再認証合意書に署名をした時点で、正式にSC再認証となります。

再認証、本当におめでとうございます。市民のみなさまのセーフコミュニティの取り組みの成功をお喜びを申し上げます。今後も国内外のコミュニティに亀岡市のご経験を共有いただき、世界的なSC活動について、ますますの発展に貢献いただくことを期待しております。

亀岡市のますますのご活躍をお祈りしております！

アジア地域SC認証センター代表  
チョウ・ジュンピル(趙 竣秘)



# 平成23年度 セーフコミュニティかめおか 行政視察対応状況

Inspection correspondence association situation of Kameoka safe community activity

2011. 4~2012. 3〔有料分のみ〕

No	視察団体等	視察日	人数 (人)	時間 (分)	視察料金 (円)	経済効果相当額 (観光・宿泊・食事等)(円)
1	福岡県 行橋市議会 平成クラブ	2011/5/18	3	90	3,000	3,000
2	大阪府 松原市 市民安全課 セーフコミュニティ係	2011/5/20	4	90	3,000	6,000
3	大阪府 松原市 市民団体	2011/5/27	2	90	3,000	3,000
4	東京都 町田市議会 まちだ新世紀・みんな	2011/7/4	5	90	3,000	5,000
5	福岡県 北九州市議会 公明党議員団	2011/7/6	1	90	3,000	1,500
6	福岡県 久留米市 協働推進部安全安心推進課	2011/7/13	3	90	3,000	6,000
7	福岡県 久留米市議会 総務常任委員会	2011/7/20	8	90	4,500	8,000
8	静岡県 静岡市経営管理局 経営企画部経営企画課	2011/7/21	3	90	3,000	4,500
9	大阪府 松原市議会 自由民主党議員団	2011/8/8	6	90	3,500	6,000
10	神奈川県 小田原市 地域安全課	2011/8/11	1	90	3,000	1,500
11	宮崎県議会 自由民主党議員団	2011/8/22	1	90	3,000	1,500
12	岐阜県 羽島市議会 民生文教委員会	2011/10/6	7	90	4,000	10,500
13	千葉県 成田市議会 総務常任委員会	2011/10/11	9	90	5,000	13,500
14	宮崎県 県民政策部 総合政策課	2011/10/11	2	90	3,000	3,000
15	徳島県 徳島市議会 市政同志会	2011/10/19	1	90	3,000	1,000
16	大分県 市町村振興課	2011/10/26	2	90	3,000	4,000
17	香川県 三豊市 自治会連合会	2011/11/7	14	90	7,500	210,000
18	千葉県 鎌ヶ谷市議会 都市・市民生活常任委員会	2011/11/11	10	90	5,500	30,000
19	埼玉県 県民生活部 NPO活動推進課	2011/11/29	2	90	3,000	3,000
20	兵庫県 社会福祉法人 日の出福祉会	2011/11/29	26	90	13,500	780,000
21	三重県 松坂市自治会連合会	2012/1/23	36	90	18,500	900,000
22	滋賀県 甲賀市政策推進室 危機管理課・コミュニティ推進課	2012/2/14	4	90	3,000	3,000
23	(社)かながわ住まい・まちづくり協会	2012/3/2	1	90	3,000	3,000
<b>2011年4月～2012年3月</b>		<b>23団体</b>	<b>151</b>	<b>2,070</b>	<b>107,000</b>	<b>2,007,000</b>



# 平成24年度 セーフコミュニティかめおか 行政視察対応状況

Inspection correspondence association situation of Kameoka safe community activity

2012. 4~11〔有料分のみ〕

No	視察団体等	視察日	人数 (人)	時間 (分)	視察料金 (円)	経済効果相当額 〔観光・宿泊・食事等〕(円)
1	埼玉県 戸田市議会 市民生活常任委員会	2012/4/12	7	90	4,000	21,000
2	東京都 府中市議会 市民フォーラム	2012/4/24	6	90	3,500	168,000
3	埼玉県 北本市議会(公明党)	2012/4/26	3	90	3,000	9,000
4	静岡県 御殿場市議会総務委員会	2012/7/2	9	90	5,000	27,000
5	長野県 飯田市議会 総務文教委員会	2012/7/3	15	90	8,000	15,000
6	滋賀県 甲賀市 甲南地域区長連絡協議会	2012/7/10	28	90	14,500	168,000
7	神奈川県 平塚市議会議員団	2012/7/10	3	90	3,000	9,000
8	鹿児島県 鹿児島市議会 市民健康福祉委員会	2012/7/13	11	90	6,000	11,000
9	大阪府 阪南市議会	2012/8/9	1	90	3,000	1,000
10	北海道名寄市議会 市民福祉常任委員会	2012/11/5	7	90	4,000	7,000
11	志免町議会 総務文教常任委員会	2012/11/6	7	90	4,000	21,000
12	埼玉県吉川市議会 「自民・みらい」	2012/11/13	7	90	4,000	21,000
13	愛知県 豊橋市役所 文化市民部 市民協働推進課	2012/11/14	17	90	9,000	51,000
14	静岡県 三島市議会 総務委員会	2012/11/15	9	90	5,000	27,000
15	徳島市役所 市民協働課	2012/11/15	2	90	3,000	2,000
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
<b>2012年4月～11月</b>		<b>15団体</b>	<b>132</b>	<b>1,350</b>	<b>79,000</b>	<b>558,000</b>

※経済効果相当額算定について・・・①視察者基本1,000円/人、②市内昼食2,000円/人、③昼食+保津川下り・トロッコ等観光5,000円/人、④市内宿泊20,000円/人、25,000円/人、30,000円/人〔宿泊地に応じて3ランク、各視察団体視察行程から算定〕、派遣は50,000円/人

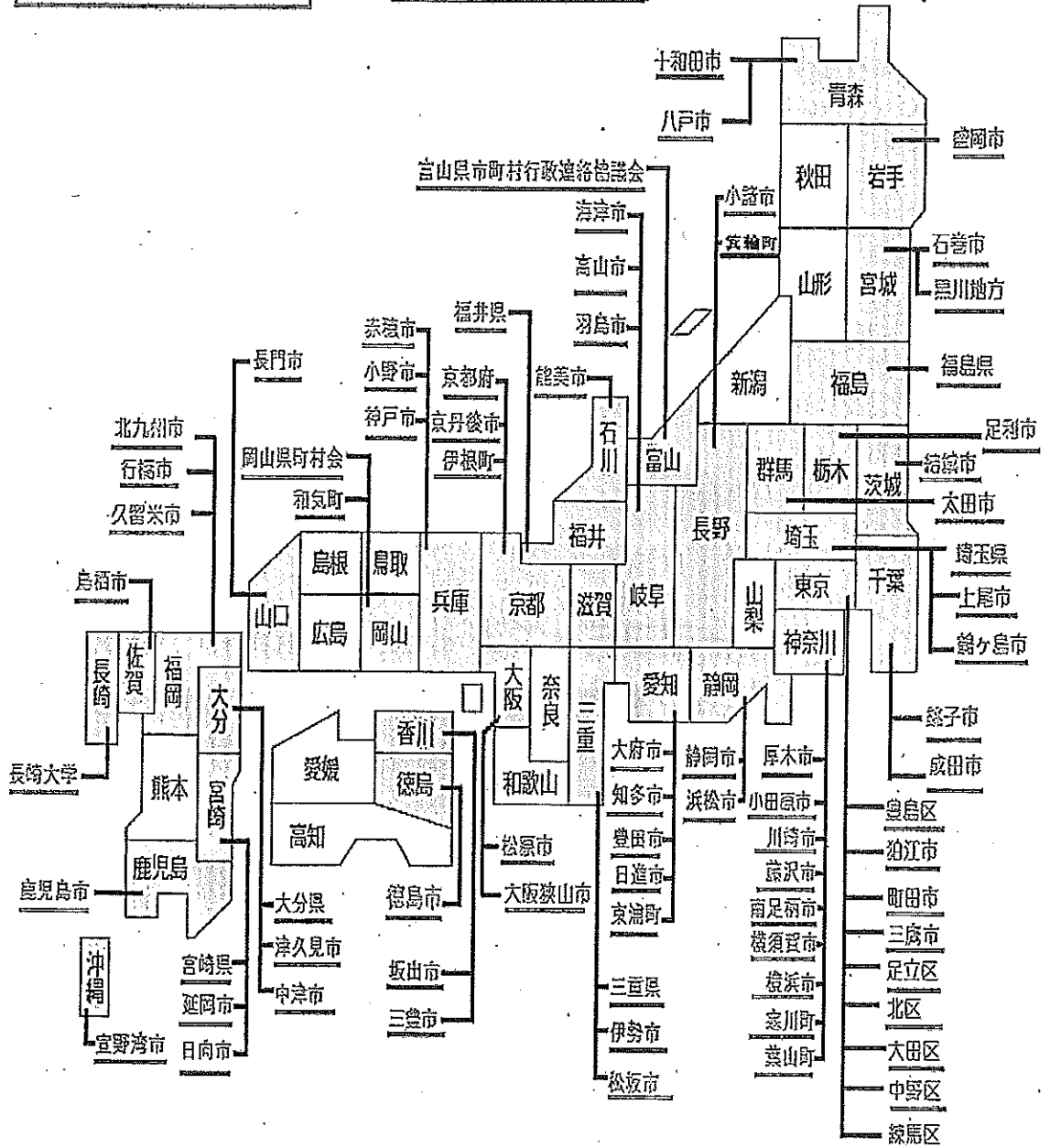
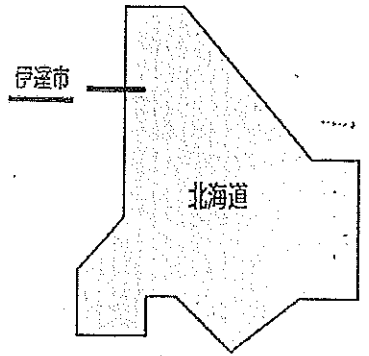


認証取得都市視察  
団体

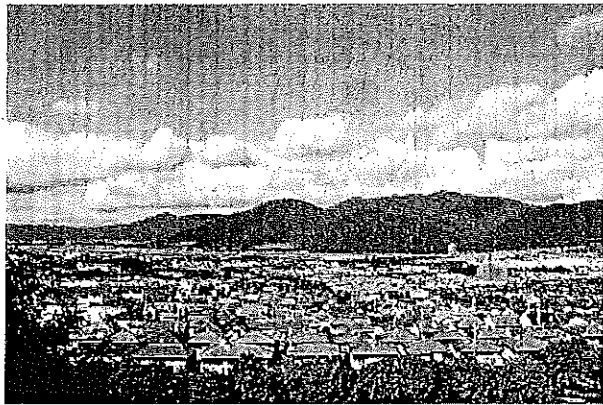
認証センターメンバー  
登録都市視察団体

視察団体

2012年1月現在  
35/47 都道府県  
の団体を受け入れ  
\*うち市町村数:61  
区数:6



セーフコミュニティ国際認証都市～かめおか～



—認証 2008.3—

**International Safe Community Designation**

**1st in Japan, 132nd in the world**